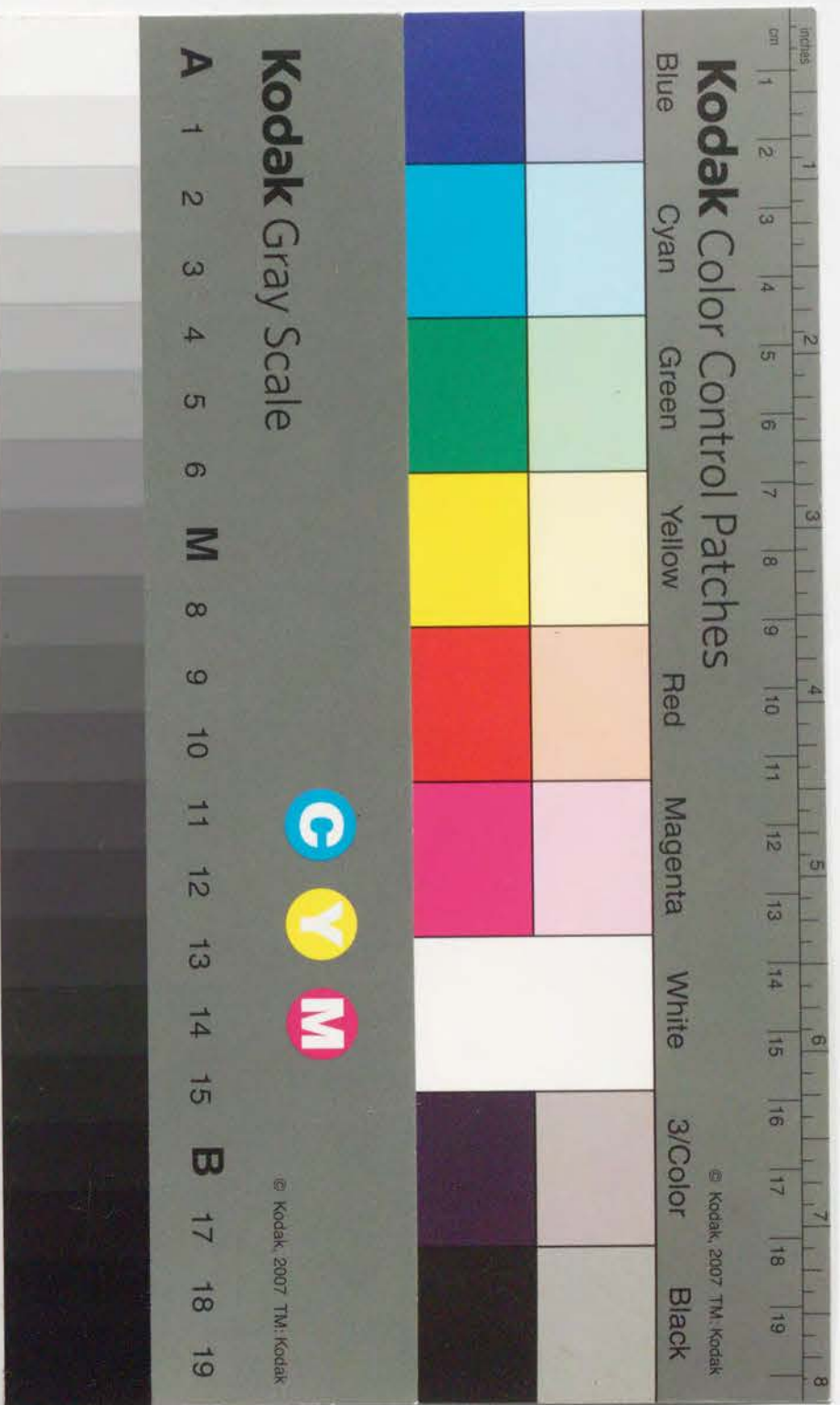




六百十一
全

四孝或問小解
熊澤先生述
全



虞舜ハ野人の子也歴々
 耕セリ時母
 とれ継母とて父
 之を殺シて舜ヲ
 生テ耕シ竹ハ象ヲ耕
 と芸竹ハ鳥ノ子ヲ
 誠孝ト地ト動一鬼神
 感ゼル帝堯ノ子
 賓客ノ礼ヲ以テ九男ノ子
 小池走ト命リ
 女ノ子娥皇

はるくす久しとてにこころを仁孝とす

小軍

漢朝ハ高祖よりひととち四百年
の基ハ文帝の考より振るなり孝ハ
生みの至宝也宇宙にありてふけく日と
しつてせむとすや天也生みの徳こ
も我受く性命とす萬物皆ふら唯
人ハ五行の精霊とて得て明德あり萬
物ハもろくも人知るなり明德の感通存
りし先なり



周の曾子名ハ参字ハ子輿天災
也孔門道統の宗也新しき
へく至孝やあり山林入
て薪とすふあゝ客来れあ
母参と見ふと指しし言子
を束く心育つてわ母乃
ゆく其故と問母の云急客
あり吾指しし言子んち
減さす

人々他の中へ居く一氣に病を放し
 る者身は應に唯れ熱乃人々を
 するに痼疾の人暑疾しと私欲の一
 体とるるふと熱病痼疾のを暑
 疾をせざるがごとく親子の骨肉と
 わを氣にほくわく一伸の情あり
 切やこころあり母ゆびとふんば子
 の心忽痛む母子呼吸お通なる子
 の情あり



周の天子若く損字へ子審賢
 人にもやへ母とふれり父
 後妻とてわけて二子成す
 実子の衣服は綿とてそ
 わけり損へる花を
 して人々若年定
 小きころ父車とひり
 よらり少索とせり父
 其れれとてを家
 て継母をいふと損へ

と事て家で云母いそもいふれむらむら
 するすい三子さんしありむらむらと継母けいぼすて悔くわい改かい
 方かたけりやと綿わたとすい六貧者びんぎやの服ふく也成人せいじんの肩かたハ
 心こころもむてさうとさうと一知女いちにょのふさささ
 ぶらー一丈さへとつらと丈さへ悪行あくぎやうあらつた五と
 夫ハ九情くじやうの収こめまり岡子おかこ審しんハふさな恨うらむ継母
 去きバ二弟にていハさむらんとて改思かいしりて父のつらと
 さむら継母けいぼの死しと愛あいして慈母じぼとす其存
 のもむらむらのけりさす都みやこ又大けり孔こう門もん三千の
 中なかも顔がん子しは子と称なづけり水事みづことむら



周乃仲由ちゆうゆう字ハ子路しりく孔門こうもんのさう
 也家貧けいひん一て常じやうの身みハ一糲せつ米まい
 藿くわく乃食くと食くす親おやありはふ
 古ふるとあむ百里ひゃくりの卵たまごと負おう
 てわらひをみ父母ふぼのきき
 親おや没ぼくして後南ごなんの方楚ほうそあり
 けり従車じゆしや百乗ひやくじやう乃案あと積つみ
 と萬鍾まんしゆ乃な祠ほくらとわらひて坐ま
 鼎てい沢ざけりわらひて食くとけり
 云親おやのふさささ其存そのぞん

あり續生はくわつる人ありあか
 りとてゆるせりゆめふらゝ相を
 かく婦人永と辞して去

まる時ハ身の内あじ忍令親奉
 して妻を死する時ハ死なう一生
 と親よりせりしそ葬とせり死生
 小我身と有せりし親乃物と至
 談る小感す神女来く其力とを
 度つてそ乃艱とまわらむし神明不測
 の理仙姑とて婦人を事と令董永一人



周乃劉子生質篤孝なり其
 父母老くとも小眼病なり
 鹿乃乳と得く令母人事を
 禄人ありしと小得る此
 物あり然るにこれを得る父
 母の眼疾いゆへー得る
 といふ人しと然るなり
 鹿の皮と衣と深山に
 麻乃ひきふへく鹿乳と
 得く親を供と獵者麻

と有りて、ちてとる割子^{かき}起くるやゆへと若
 鹿の皮は衣衣く鹿^か群^{ぐん}ふまう一つと
 へをくやとて、乃やまんとて鹿^か近と
 何とまうつんやとて、れとて存^{ぞん}感^{かん}の
 神と動とこりゆへ、鹿もさけ、
 乳^ち張^{ちやう}やと至^し謀^{まう}得^{とく}とて、
 別^{べつ}せと小^{せう}念^{ねん}のれら、はさるゝ知^ちり、



後漢の江革^{かうかんのかうかく}のとき、
 とて、ふとて、乃とて、相^{あい}依^いの
 也^や乱^{らん}とて、ひとて、有^あく難^{なん}と
 け、る途^と中^{ちゆう}益^{えき}城^{じやう}多^た一^{いつ}革^{かく}
 け、びや、とて、つとて、去^さと
 老^{らう}母^ぼり、とて、伏^{ふく}若^{じやく}く、
 とて、人^{にん}とて、殺^{ころ}ふとて、
 とて、ゆとて、下^か切^きとて、
 ふとて、

人のふいふとて母を養ふを得る
 忍乃物皆母の衣命なりてわが
 江草身乃難と忘るる母のふりなり
 りんこは母なりと母ふりあまんては
 りやうお慈母乃る子なりとて
 全作の精神赤子ふりなりとて親
 の子なりとて和意をいふ人皆は
 どのくとも子の親なりとて
 應けりやあの子提の母なりとて
 者なり



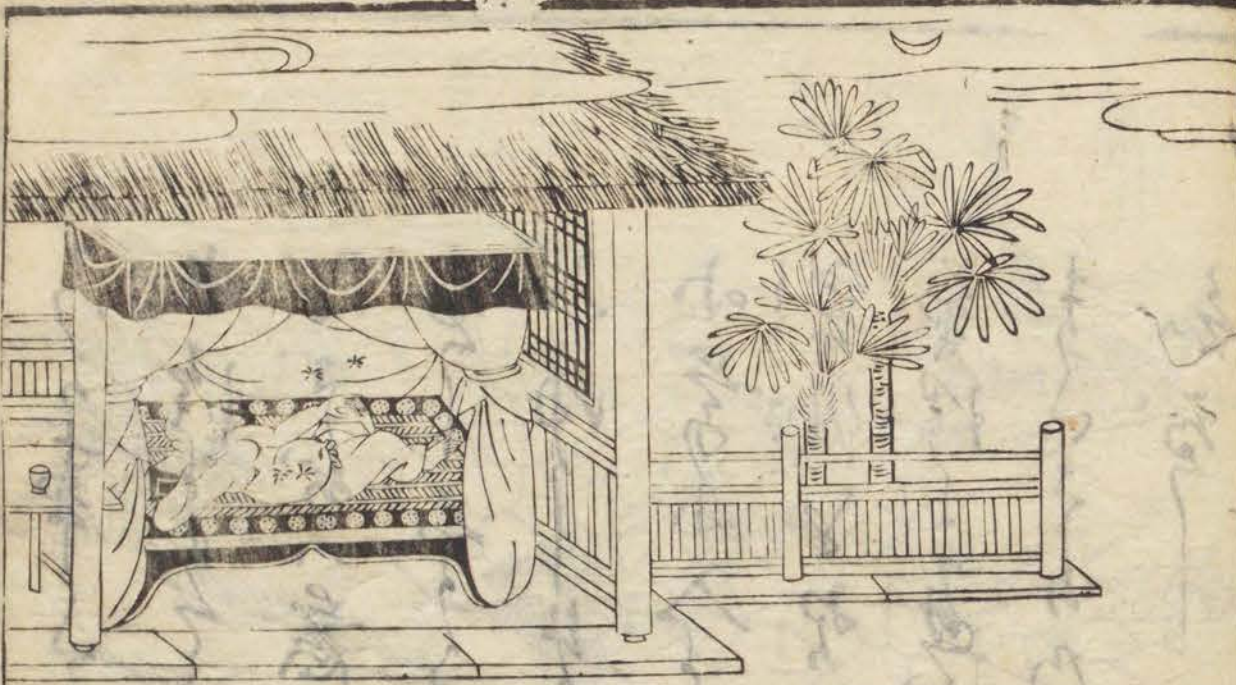
後漢乃陸績字公紀年六歳
 の時九江の袁術小兒也袁
 術橋とあく思のあや
 あく績橋二枚と懐中
 ゆりふりく糸とて時地
 たりぬ袁術云陸郎賓
 客とわたりて物なりと
 うりよとてやと績ひごま
 つりてさるる云吾母の
 ひゆりぬハゆりてと

と術大い亭におとす
 六歳乃児とつら食とるこし
 ときもく母の性せいの愛とる事と思ふ
 かきふわらうるにうじりしや
 しと地と落ぬ貴人といふけし
 四し恥りしある赤面せつめんお及むす
 至誠大人を感ぜしむ王性教おうせいこうとま
 ぶれと失うしなすうとくあしとを礼乃
 中おせり



唐乃崔山南さいざんなん父の母唐夫人たうふじん
 姑こといふて至存しぞんの姑と
 長孫夫人也年とし高し
 齒はの唐夫人毎日髪かみ洗せん
 けふれ力ちからとさうれん堂どうは
 升のぼりて其姑この乳ちちをのまじ
 姑粒食こりゅうしょくせさる事教年
 ありを堅固也一日長孫夫人
 疾余乃病にわ長知皆所
 つらけし云々案よれん

よはらの思を轉せしむるなりそと子孫の綿
 々人新婦えふの恭敬のしむるなり事と乳の
 老父の姑と乳と飲の一姑もまた辞や
 しむるなり乳とのびしと常れ人情と
 以てこれ共の心もあらうと事と唐文
 人姑乃老妻らうさいとんるしと児のしと常の食
 と食しと乳をんく至誠と乳と飲の一
 姑も其仁孝と感しと辞せず老てふと
 び問をりとの言ふ姑婦ふはしむるなりと
 とし可也凡情の及らん処はわらす



晋れ吳猛年八歳親より
 つく純者也家貧なり夏
 乃蚊といへど蚊とあそ
 べき帷帳あり蚊咬れり肌
 膚ふ小なりとまゆて膏血と噴は
 吳猛親のりつらつわく
 らしを不驅お已とらつた
 去く親の身おわすし
 しては悲しむ也
 よの常れ人の親の事

うら事ふ中心様をけとあるいふん
 也はとてつうはよとて蚊の力
 とがハ慈母の愛とよとて先とふ
 る一とて我力ふわうとて親の
 小ゆ一とて八業いよう
 小学ふ人とも父母兄をふ事
 習候と習の事と人書紙讀もい
 習候と習の事と人書紙讀もい
 まうとて乃良能良能吳猛一とて
 知る



晋乃王祥字ハ休徵とわく母
 と夫の継母朱氏慈わらうと
 父のあは祥不孝といひ
 諍とていひさけわらうと
 うとて愛候父と夫ハ天性の
 是とていひわら母生魚と食也
 も候思ふは天とて
 氷はとて未とてふと解祥
 衣候わとて氷は師分氷魚とけ
 双鯉躍おとてて切て母

信じて朱氏に思ふ慰めて様心もまうて安
 嚴寒の厚さかへ人々もさうな落つて衣を
 おもひより先でぬれ氷よりさうも何う解へ
 る氷とのつら解て難事至誠と地と動
 春感のつらと知也とよやく河水の上一
 片氷
 少くもさうさうと晋の王様天下一人は
 如此の孝子とてふ継母も存れ事とほめて
 後すれ父といへといふれと信す君も此後と
 ありと知れや曾子の賢と母の信わたりと
 まいおどろく後人信う思ひさうや



漢の郭巨は貧者なり三男有る
 乃曰わら巨母この後と愛し
 てさうらの命をわらふ
 郭巨妻は告ぐ云貧乏な
 る母は供する事男よか
 かり子あり母の命は減る
 此を埋めんと志す坑を
 掘ると三尺ありて黄金一釜
 得るよと郭は天賜郭
 巨と奉行する事わたりと

くく虎の頭を撫り虎もにびくず豊く
くくあやうくくく去るを小言くく
くく

楊子くくくく事くくく
くく虎も勇猛くくく去る感天
地神明と効く古今武勇のやうく
くくく或ハ勇力強き或ハ利刀
矢くく或ハ知謀とく或ハ力とく
也楊子くくく事くくく
くく大勇也仁者心を勇くく



宗乃朱壽昌ハ立の子なり父の
正室と母とす七歳乃時正
室壽昌母と池市小都
嫁と相不知と五十年也
神宗帝の時官禄と
くく秦乃地くく生母
劉氏と尋母を刀くくハ
不ゆくくくく
くく時一母乃年七十
朱壽昌ハ我朝乃くく

なるは公家のより一武家乃伐りて
 えふ中のまゝくも同一家人と流
 へりしものてやうあらうと人々も
 へりし官禄と去てきつゝわりの
 至情を人々もきくことなり



南齊乃庾黔婁に人て居
 陵と流し令とわめてい
 十日なりしより父の病死
 ころの日付候し心れし金
 身汗とがりし官ととて
 するやふ家おゆり毀る
 云病乃輕重とあらんと
 へる歟と嘗て若き可也
 黔婁は少と嘗て和
 心ふりて憂て力と以て

ろうし事成いのち父終る死す
 遠方より病を告ぐ者つくる
 ろうふらやく父の病れ終るくを知て
 孝の職と稱し官福とせし
 所づきくくくくくくくくく
 丁ふふふふふふふふふふ
 ふうふうふうふうふうふう
 ろんそく也



周の老萊子、至孝のこころを
 二親はもて喜ぶとて、其
 年七十
 歳にして老をくくくくく
 父母の在るをわが家とて
 侍らば、又色のおもやう、衣
 とて、嬰兒のまじりて、親
 のくくくくくくくくくく
 つくくくくくくくくくく
 嬰兒の啼とけず、双親は

しらして舞へ春風 終夜臥動り 喜色に
 四よとてや

老萊子（いふかひことすぢせしむ）毎在言不稱老の礼と云ふの事
 りて双親子の老を人々感懐（かんわい）せしむ
 と見ふこころあふみ色の衣（きぬ）盟（もい）の戯（たわぶ）と云
 早は二日の狂言は此年主父母と云ふ事
 三載（さんざい）の時より笑ひしる父母の心も又孩提（がいだい）
 のひらりと改めと大神の九情（くじやう）親（おや）は父心
 恭敬（かうけい）の氣象（けいさう）は孝子（かうし）服（ふく）をふへきことと云
 此は老萊子ハ常人ト云ふは父母ハ此の事



漢ハ蔡順（さいじゆん）幼少の時父と共
 て孤（ひとり）とありし母は年
 至存（しぞん）の時王莽（わうまう）が礼
 年（ねん）も又凶荒（きゆうかう）を以て母は供
 与（よ）と物（もの）を桑（そう）の葉（は）を以て
 食（く）とてふとてこれと盛（も）
 眉（まゆ）賊（ぞく）を怪（あや）でとて取（と）り
 云（い）ふとて母は母は云（い）ふ
 のこととて食（く）と賊（ぞく）と云
 わりしとて白米三斗牛蹄一

隻とよふ

葉のこれとよふの味申くおとよふの味酸
 しとよふとよふとよふとよふとよふとよふ
 供あ全體の精神 親の上よはつてこゝろ
 こゝろ味を好じしとよふとよふ此一事小よ
 て他の常と知れしとよふとよふ父母はわあ子わ
 且存無小わらしとよふとよふとよふの養見
 ちとよふとよふとよふとよふとよふとよふ
 生れとよふとよふとよふとよふとよふとよふ
 かなとよふとよふとよふとよふとよふとよふ



後漢乃黄香字文強年九歲
 乃時母を失ふ思慕してやま
 ず里人こゝろ存と稱し父事
 て至孝也夏を炎暑の夕六
 父の枕とひりて扇を涼
 しとよふとよふとよふとよふ
 身試以てとよふとよふとよふ
 せむ其他のほとよふとよふ
 了太守劉護奇なりとて
 こゝろ存と表と

九歳乃童子躬勤若と執て子ての職
 と事とてしん知教をたてしと想ひ
 母を念て父と痛やわけ日わてび得
 親ゆててる子に日代愛を唯
 この孝事従容とて礼をてて天
 質れ美や



漢の姜詩母の事て至るや
 妻の龐氏姑よなむとて恭
 謹なり母好く江水と飲め
 龐氏おとなく江中氷と
 汲く姑よとて勤勞とて
 うつどて喉に氷又魚の膽
 と嗜む姜詩常ふ生臭と求
 め腫は作る母まじ隣母代りて
 共々食を食のさつらふ
 泉味江水のさつ日又

姜詩うらう母は孝けらのをけらる事
 仁うて誠ら此有るく夫の志よき
 て姑も孝也夫婦家業とほきりて衣念
 リかへ貧うていふ海あり所也きふき
 水と汲生魚と求む母ハ嚴うてけり
 一隣母とてとよびうらうきり
 子婦の勞とらるる事夫婦ふりて
 のりていふ誠けと至誠と他と動り江
 魚屋のうらう生るる事夫婦のきり



魏の王褒親の事して純孝也
 母存日雷声と怖るる事
 没して山林のりふ葬る事
 と軍とふ疾風極むと
 と墓一やの奔て祔跪し
 泣て告ぐ云褒うふり
 孝う事けられと其心母
 と死せむとせと父へ司馬昭
 りふ殺さる後晋とて一統
 と王褒終力西へ向て坐せ

晋小臣よりこの義也

震ハ乾坤の長男也春分の時沢澤と声と
 発とこれに雷と人へ雷声と云て此
 血流と病沛と消々萬物ハ雷声
 へて沈沛と散して長盛と雷
 へて五穀豊年なり寸出動作
 此理を人ハ愛とく
 怖るへく王偉元母ハ怖るへく
 の理をさく孝とくもさく
 孝心死生とへて



漢乃可蘭幼女此時父母若ふ
 失く孤也を去るく
 得るハ父母の親を生く
 幼弟也母泣き
 切也思慕の情ハ二親の像
 とく事なりと生
 其意久く不
 其心とく小針とく其
 指とく血流ハ木像蘭
 とく眼中涙るハ蘭

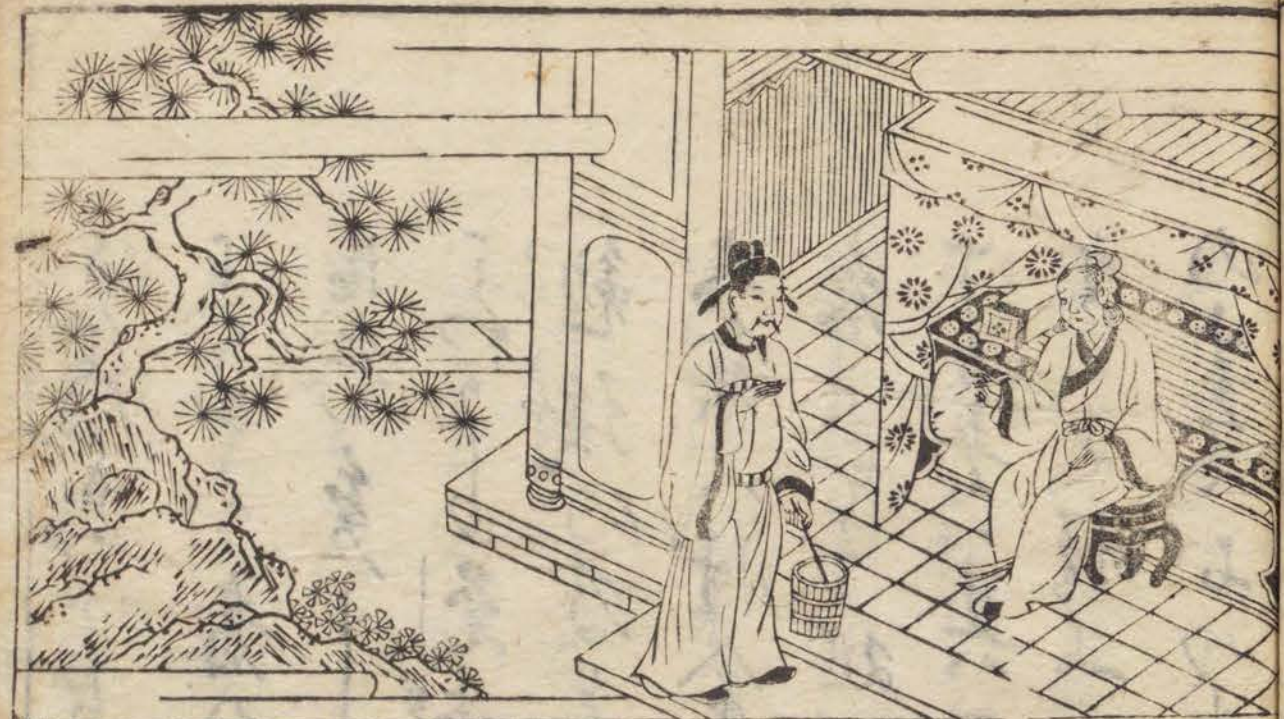
この書を記し去

丁蘭懐哺養育の恩と報せし事と
二親の本像と堂上は列一朝夕生る親
を孝に侍らせし本像と主として
終る家まれば是れ蘭の本像なり
と氏とて生る事なりと妻は本
と以てんるあはれきとてり
む像に括る本なりとも蘭の孝なり
よるつが故に生る人の應は信の
きり知るに非るなり



晋の孟宗字の恭武やうとて
やふ父ふなれて孤
母老て疾有り冬月
乃り物を合せん
人かれ乃りふあ
竹林に往く竹と抱て泣
孝と他と感一頃更
て竹の子数莖あ
ゆりてはつと
も少食れりて疾愈

天れ物をりすま生う一夏長一秋收先
 を藏もその困藏の時、當て盛に
 五月の華と見やもいと得へる家
 常小恙よ先づら貧乏の親の如
 くとあつてもいふ事あり華の得
 てもいふ事ありふいふ事あり
 無心くして竹林のゆく嚴室小筆生
 一孝感の朴物良菜とあれば神由
 不測の理や



宋乃黃廷堅山名と号し元
 祐中、小吏に官し、性
 篤孝なり。少富貴をれも
 母を事て其誠を盡せり
 毎夕母の溺器を洗ひ婢
 妾の事とてつらげせり
 榮顯を以て存性を極す
 うれ人早賤の事小者
 士君子は業とてけしに
 少富貴なり人ハ小人の

うたふらうやあきなりけりつゝあまや
うとく人者ハ徳や山岳富貴のそ
は衆多しとくとも老母の事て
えりり至情とあふかき性の徳
勉強の及とうらふりけり

大衆ハ性命乃父母ははく人けり大
衆とくも起りも父母の衆と殺さんと
する者ハ其中心ハ非衆衆ハ殺し得
ずとくも起りも父母の衆と殺さんと
の生えおつとくとも死にけり

君は世ふとくも一過と文王悪と擯ふ
悪人の常然りや徳とて一善乃
君明不千りあふ兄と愛とくも
あふ也こ乃あふ衆其衆あふこと
我はひのう唯自己一團のて理のこ
うと一毫及衆にけりさうの性
命と父母とくも弟とくも後衆の衆
悪とくもさうの衆とくも善とくも
善とくもさうの衆とくも善とくも
捨此意ハ衆力と脩り善とけり

父母弟と董^{たう}熈^ぎして曰^いく、軀^{こゝろ}のちめ
 姦^{かん}悪^{あく}とらげしうさふものなり云舜^{じゆん}
 と心はありて父母あるの惡と見えてこれ
 とけきあんなるは董^{たう}熈^ぎとし女^{にょ}也^やよ
 うさうあひむ事と一語^{いちご}づんやま
 あらも其^{その}惡性^{あくせい}は激^{げき}して化^{くわ}する事
 わざりて父母兄弟^{ふぼてい}乃^{すなは}ち死^しぬと見えてめ
 心^{こゝろ}あつね董^{たう}熈^ぎするといふ他^{ほか}にあ
 るる処^{ところ}よりそなた孝^{かう}行^{こう}也^や兄^{にい}
 そなたの愛^{あい}とそ^そ雞^{けい}鳴^{めい}てはなき婦^{ふう}
 善^{ぜん}張^{ちやう}あり徳^{とく}とあらひ少^{せう}と見えそ父
 母^{ふぼ}それ姦^{かん}惡^{あく}とともめぬ事なりし
 はそなたも是^{こゝろ}と董^{たう}熈^ぎして刑^{けい}罰^{ばつ}し
 落^{おち}入^いの大^{だい}惡^{あく}と見えしうぬはすとわさふ
 ふら処^{ところ}乃^{すなは}ちあらはれ舜^{じゆん}よけえけるふ
 ゐりたり舜^{じゆん}姦^{かん}惡^{あく}とみえくをしよ
 ぞく心^{こゝろ}あつて舜^{じゆん}とすうさうしよ
 陽^{やう}明^{めい}子^しれ郷^{きやう}は父子^{ふし}訟^{そう}者^{しや}何^{なん}の陽^{やう}明^{めい}
 子^しをうくまうおし入^いて云^い舜^{じゆん}と
 こゝれ世^よ々^々大^{だい}不^ふ存^{ぞん}の子^こ瞽^こ瞍^{そう}ハこゝれ世^よ

大慈愛の父や舜ハ云々大不孝
の事と見へる故に云々孝也瞽瞍ハ
云々大慈愛云々孝子云々如此貴育
一成長せしむ我ハ不叶ハ不孝の
子云々と思ひて後妻乃みふ云々
云々云々不知云々ある不慈云々と訟
者父子も彼おと云々云々又云生
の大病ハ一の傲乃字也子云々て傲
云々不孝也臣云々て傲云々不忠也
父云々て傲云々不慈也君云々て傲

云々不仁也云々傲云々不信也
云々一の聖賢請乃好人の若輩云々
云々一の無我云々我云々則傲也我
云々云々謙云々謙ハ万善の基百福の
母云々起云々傲ハ衆惡の魁禍災乃源也
舜の大孝大知一乃無我云々大徳云々
云々云々問孝經云父有年子則少不
陷於不義如此云々時ハ此云々云々
云々云々云々云々云々云々云々
不見不格云々云々云々云々云々

善とほくらへて——折へる水も心
自然の事やとてよく相叶うる父子
弟の常のふくふくといふらん其
あつらん乃相談はる各の良見多し
和らるる其ふくふくといふあつる
朋友君臣皆あつる事多し。——
其れをあらわしむ。水を忍ぶ事を知
や父母弟ハ不和くつとて愛ハ孩提の
時のれを不失父母弟の御人ようと
まふく刑罰はらへ入つてやうけらるる

あつ時ハくめい人は水と一旦の心得らる
とてわけて常の人れ思ふといふ
とくそへめばそのれらる——其れ
と殺さるる事ともある事ふいあら
す何の咎悪り。——れはまふらん志らる
と父の中心如此なり。我赤子孩提
とき月せらるる成長せしめやと我
と不悦者ハ我不孝なりとせしめらる
れは頑固傲と化し。——常ふゆと
知る董永王祥郭巨子孟宗の篤孝の

しるしとて天下各一人也平人凡情の及
しむ妙は非ず至誠ちよ感^{かん}て天下
古今二つなりと神^{かん}應^{おう}何れ孝子れ情
とほくせむ妙よとわくはいふてさやほ
あふれよ父母よとわくは或ハ情欲乃
父母ははく人或ハ口体の父母と奉^{ほう}事^じを
りよるが故は天^{てん}應^{おう}も又祿女とほく人
厚^{こう}氷とらう^{らう}の魚とわく^{わく}の金と
さまし寒^{かん}筆^{ふで}紙^し生^{せい}一^{いち}紙^しのそ大^{だい}舞^{まい}一^{いち}
とわてハ徳^{とく}聖^{せい}人^{じん}とわする天子その富^ふに

海とさう^{さう}の壽^{じう}百^{ひやく}有^{ゆう}餘^よ歳^{さい}子^し孫^{そん}一^{いち}力^{りき}の業^{ぎふ}
乃大^{だい}福^{ふく}とさう^{さう}の明^{めい}君^{きん}れ諸^{しよ}臣^{しん}と一^{いち}知^ち
竹^{ちく}ふも如此一事^{ごと}くのそを^を紙^しわ^わふん^んら
者^{しや}よはう^{はう}のやとく^{とく}の貴^き祿^{りく}とさまし
才^{さい}徳^{とく}衆^{しゆ}よこ^ここ^この者^{しや}よハ高^{かう}官^{くわん}大^{だい}祿^{りく}と
命^{めい}せ^せら^らう^うあ^あら^らう^う也^{なり}と人^{ひと}ハ百^{ひやく}安^{あん}の^のか
は射^やが如^{ごと}く舞^{まい}乃^{なり}存^{ぞん}ハ黒^{くろ}星^{せい}ふ^ふ當^{あた}ら^らう
こ^こう^う地^ち乃^{なり}存^{ぞん}子^しハ的^{てき}の當^{あた}ら^らう^うこ^こう^うふ
ち矢^やま^まそ^そのゆ^ゆう^うさ^さう^う者^{しや}ハ及^{およ}妙^{めう}は惟^{ただ}と
と^と人^{ひと}と^と目^め當^{あた}と^とす^する^る者^{しや}ハ黒^{くろ}星^{せい}れ^れハ

故は後学の人、大舜と師とす。一
其天より与ふる所の徳の著る一と勸人
しるす。一と性人等の父母と尊
く、板来の情欲と父母と尊す其此
ハ目よりつくとも心よりむく
悪乃しとくとも人よりせしむ
とくふ新しき人の苦心至誠とす
一父母平人なりと好人とせし
本より好人なりと親と師とす
也問董永何と以く口体とす
云喪祭ハ家乃有無とす一親

乃精神去る、此のむく一乃
為子の一生涯人のやばくとせん
一何ぞ親の心よりくんとや此一事
と以くくも先祖とせし田宅法物と
く親乃も喪とせし一と
けし起も皆親の供てて妻子り
あり一親の口体の為先祖の統
絶んとハ親をも又不孝の罪人なり
なり親を出るも家の有無とす

妻孥のりて共々老をある——葬も産
とやぶらうなりと乃分る——董永
小とわくハ天質の美や神明と感
動するの篤存りしつとてや
其時兩位の勢も後世に名を
つれ人の手印おひりたる事や
世の人の親の力を我力の——思ふ
者りし大孝のすく有る——董永ハ
我力より親の力と愛せし妻孥と
人の欲する処にあらんとも親を養ふ

小さく有る思ふもわく人乃
やはこもかるも人のくし処や
と親の葬の為ふ一生けんや
うけふ人情のありし事うて大
力量のふといふも及ぶに
とハ愛する——事ハさひ——同王祥
が後來の情欲乃父母は事々といふん云
继母祥と不孝といひく父は繼母愛
と父は失くそ性の善はそひく父
ふりし不孝なりゆへに如此と思ふ

継母は徳とてうきで継母は孝行欲とて
 おあらずとてうきなりといふべし
 一とて祥ハこそ世をさうすしとて毒
 ももなり成るなり故は母生魚と欲
 せんハは親と叶へるハ不存なりと魚
 ひく其得るこそ紙分別やす至誠は
 こゝろを求む其志の篤く其ハ義林とてふ
 とう繁あり祐明の君威といふか知む
 かのこも志ハ愛とてく慕ふこと事ハあり
 ひく一嚴寒厚氷乃時食の生魚ハ富貴

乃んたふ秋よきく久おん事ハ云々
貧賤の者いふ、俄に川江は得へし
やりろこの中ニ海遠く海の生る
天子諸侯といへども用行つて安んじ
川澤も求むのもや、嚴之らふハ衣成か
さうぐぞふ火絨用ひしハ居る
亭よりともさうめく、厚衣ふ所ハ大病を
免とく、此身祖父母の傳へたる親の
口体の欲れ為ま生れ本をそそりつ
親ハ不孝の罪人、や他人へふお意

心づら者人かいつらなつてふもぐとて
あゝ父母の中心何やううらうらん王
祥も何やういふ是非を論ううら
世の人これとてううとせし後來情欲の
父母の事小流もぐう問郭巨いん
云一家の至味と調て親より母
へ廉食を食せうい子の志りも親より
法と愛うう食法もううとて法をせし
い親乃志りの中心慈仁の発るより
うううう口体の嗜欲とわうううう

うう親の中心は味と調て其志と愛
至味もうう廉飯と供もぐとて親乃
独味のせりふ子紙殺とて親の中心大
小痛しううこれとてううとてうう
何れも志るも全神の精神親と愛
敬もうう小何れも己とてうう子紙殺
あゝ又まの心は順後とてううあ天
下古今衆人の及ばうう処りも道理
あゝとてううあゝとてうう郭巨
篤孝へ老師大儒とてうう其十一

と得るものなり。神明の具感（其至
誠純孝の心ありて事ふはるる事
者も又その心を学ばるる郭巨の親
わらへば誠なり。己と妻子ありて誠
不知の者なり。福あり。孟宗の
云冬月の生草（さいかん）へて子大樹（たいじゅ）なり。と
得る。不能雪中ふり人の死と云ふ
事あり。と云ふ。いふあり。と云ふ。時あり
る。物あり。れと念ふ。人あり。無病の人
なり。と云ふ。情（じやう）あり。況や病人と云ふ。情（じやう）

道理よりいふ。性命乃本心よりあり。事
なり。と云ふ。求め。終つて。事あり。なり。と云ふ。れと
求む。人あり。と云ふ。いふあり。と云ふ。念ふ。人
あり。と云ふ。の道理なり。と云ふ。孟宗平日
其家より得る。物なり。と云ふ。親なり。と云ふ。
子あり。と云ふ。いふあり。と云ふ。物なり。と云ふ。
求め。出。と云ふ。供なり。と云ふ。其なり。と云ふ。常と
なり。と云ふ。草なり。と云ふ。人あり。と云ふ。時なり。
さる。物の毒氣あり。と云ふ。と云ふ。と云ふ。人あり。
感の物なり。れ。良薬なり。と云ふ。病あり。と云ふ。

孝の至誠神と感とる道理あるを平生
も人の及くことあるを孟家の誠とわ
て不^ふ得^えざるの神助^{しんすけ}あり至誠
無心の意とて天地と動^{うご}く鬼神と
感^{かん}ぜしむるものと云ふは孟家は在
ては是非を論^{ろん}ぜばなり其理は孝ふ
時の性命の父母と共^{とも}く情欲^{じやうよく}の事
れあやまらるることなしの事と云
ふことありて君子といふこと
さるものありきなりと云ふは孝ふ

とて父母と治^ちへりて舜は父母を大
悪人なりとある孝子なり名はわが
あり舜は父母と董永王祥郭
巨孟家の父母の事なりと云ふ
孝子の事なりと云ふは感^{かん}も有^ある
君子乃道徳なりと云ふ事なりと云
ふ他の聖賢も孝子の事なりと云
ふことありと云ふ孝子の事なりと云
ふ其位々其分々小意なりと云ふ
失^あはれざる事なりと云ふ孝子の事なりと云ふ

父母の心を安^{やす}むと爲^なす人々
經の五等^{ごとう}ふはまゝなり是れ小学^{しうがく}なり
記^しせる者^{もの}はへちなり一上^{いちじやう}古^こ乃^の代^{だい}の
や末^{まつ}代^{だい}はあ^ある^る日^ひ布^ふはわ^わる^る
い^いん^んと^とる^る人^{ひと}の時^{とき}勢^{せい}人情^{にんじやう}大^{だい}なり
ろ^ろう^うの上^{じやう}古^こ上^{じやう}質^{しつ}素^そは下^げひ^ひる^る
一^いく^く男^{なん}女^{にょ}共^{ども}人^{ひと}のやほ^ほと^となり^{なり}て^て出^でる^る
者^{もの}と^とる^る人^{ひと}はあ^ある^る子^こと^と婦^ふと^と父^ふ母^ぼふ
は^はく^くへ^へき^きふ^ふ人^{ひと}なり^{なり}世^よの^のなり^{なり}う^う
無^む始^しと^とる^る此^こる^る知^ちは^はあ^ある^る思^{おも}へ^へは^はは^はと^とり^りて

りせ^りる^る小^{せう}非^ひ女^{にょ}は^は上^{じやう}に^にお^おく^くる^る
あ^ある^る親^{しん}子^こ兄^{けい}弟^{てい}離^り散^{さん}と^とる^る男^{なん}女^{にょ}共^{ども}
人^{ひと}のや^やつ^つと^とる^る者^{もの}多^{おほ}なり^{なり}父^ふ母^ぼ共^{ども}
分^{ぶん}に^に相^{さう}應^{おう}は^は奴^{やつ}婢^びと^とは^はり^りて^て子^こ婦^ふと^と
つ^つづ^づ此^こ方^{かた}久^くし^しと^とる^る常^{じやう}と^とる^る人^{ひと}
皆^{みな}知^ちは^はあ^ある^る思^{おも}へ^へと^とる^る奴^{やつ}婢^び共^{ども}と^とる^る
と^とる^る子^こ婦^ふと^とは^はり^りて^て人^{ひと}
情^{じやう}の^のあ^ある^る父^ふ母^ぼ子^こ婦^ふ共^{ども}あ^ある^る
ら^らす^す又^{また}婢^び妾^{せう}共^{ども}と^とる^る賤^{せん}男^{なん}女^{にょ}共^{ども}
さ^さあ^ある^る人^{ひと}は^は衣^い人^{にん}と^とる^る人^{ひと}と^とる^る人^{ひと}

の家業せへくも勞役もれ父母
小はふへといふ海なりといふ二人の
男女はわらも其業の所と見えし
和用ふつひくも朝夕の心術
存意の事減不失く一家和睦一父
母順なりといふをの至なる人
前漢の文帝宋の代乃山谷といふ
へ天質れ義也存心の一事ふといふ
と生急安行なりといふなりといふ
わらすといふの力といふといふ母
久富貴といふ婢妾の事といふ
うけせといふ人といふといふ
ひく下つこの病のおといふといふ
といふ不実といふといふ
たれ言といふといふ
けといふ其為といふといふ

此北四孝ハ息游軒熊澤了芥先生の注
 釈ナリ附録にある人の問ハ答へて孝道
 至理を教授しぬいづるを梓行して世に
 ひろくを梨

寶永庚寅冬

小山知常誌

文政八し酉二月未版

大坂書林官川町鉄橋筋
 土佐屋喜兵衛

攝都書林三谷文籍堂藏版目錄

北堀江鉄橋通官川町

土佐屋喜兵衛

尚書正文

冢先生訓点

全二冊 王羲之十七帖

釋文附

一帖

四書集注

道春点
 再刻

全十冊

小雲棲稿

大典禪師
 詩文尺牘

全三冊

全

山本復齋先生訓点

全十冊

略解千字文

諸書を略千字文
 の源を音と正し全
 字毎に注釈を加ふ

全

小學

内篇
 外篇
 出所附

全四冊

古方類聚

金匱傷寒論求法
 ヲ詳ニ合集ス

全

默禱錄

一名近思錄講義

全二冊

中風治法指南

岡本一抱子著

全四冊

新萬歳

桂文来作
三木探月齋画
全五冊

萬世のわらわらとやとがらわら
見えてくれば後とてさむい夜伽の友
うたへてくればさむい夜伽の友

滑稽漫画

晚鐘成作
全一冊

あやうきあやうきおもしろの中ねは彼の
りやうにうらふくまきくえねち難儀さる人
いれは滑稽のわらわらとやとがらわら

教訓童草

柳園種春著
彩色入
全二冊

いそぎのなまけな人々をのたまふこと
おかしきことばをいふこと
おもしろきことばをいふこと
おかしきことばをいふこと

全 後編

全著
全二冊
近刊

いそぎのなまけな人々をのたまふこと
おかしきことばをいふこと
おもしろきことばをいふこと
おかしきことばをいふこと



